

市民事業交流会 (中間報告会) を開催しました

県では、水源環境の保全・再生に取り組む市民団体の皆様を支援するため、補助金制度を平成20年度からスタートしています。

この度、平成21年度活動状況の中間報告を行うとともに、市民団体相互のネットワークづくりを通じた市民事業の拡大・拡充を目指して、交流会を開催しましたので、その結果をご報告します。

【開催概要】

- 日時 11月6日(金) 13:30~16:30
- 会場 プロミティあつぎ A・B会議室
- 参加者 39人
- 内容 第1部 活動状況報告
第2部 グループワーク
- 主催 水源環境保全・再生かながわ県民会議
市民事業専門委員会

第1部 活動状況報告

第1部は、平成21年度補助事業者の方から、現在取り組んでいる活動について報告いただきました。

どの団体も活発に活動をしており、会場の参加者から活動内容についての質問が数多く寄せられました。

【報告団体一覧(9団体)】

区分	団体名	主な活動場所
特別対策事業	① NPO法人 しのくぼ	大井町篠窪地区
	② NPO法人 自遊クラブ	相模原市津久井町三井地区
	③ NPO法人 丹沢森の仲間たち	南足柄市荻野地区
	④ なかい里山研究会	中井町鴨沢及び井ノ口地区
	⑤ 日本の竹ファンクラブ	中井町及び愛川町
普及啓発・教育事業	① 河川生物研究クラブ	相模川(相模原市内)
	② NPO法人 ふれあいの郷	相模川(相模原市内)
調査研究事業	① ECO Friend College	県内上流域(清川村など)
	② 丹沢森林環境研究所	酒匂川上・中流域



報告の様子



熱心に耳を傾ける参加者

第2部 グループワーク

第2部は、テーマごとに4つのグループに分かれ、参加者相互の意見交換が行われました。各グループともに自らの団体が抱える課題を発表し、情報の共有が行われました。

【各グループの結果報告概要】

グループ1「活動資金の確保」

- ・補助金制度の拡充を図ってほしい
- ・資金確保のためには法人会員の獲得も有効

グループ2「会員・イベント参加者の確保」

- ・各種広報媒体による宣伝、イベント内容の工夫、社会資源の活用、団体同士の相互協力が必要

グループ3「水源の森林整備の手法」

- ・里山・奥山など活用目的に合った整備手法が必要
- ・若い世代の確保による、知識の継承が必要

グループ4「水質調査の手法」

- ・NPO・学生・行政それぞれが担うべき役割がある
- ・調査の継続により、データの信頼度が高められる



熱い議論が繰り広げられる



結果発表

補助金の愛称が決定しました！

この補助金制度の正式名称は「水源環境保全・再生市民事業支援補助金」です。漢字ばかりでちょっと親しみにくい名称ですよ。

そこで、この制度がより親しみやすいものになるよう、補助事業者の皆様などに愛称を募集したところ、43件ものご応募をいただきました。その中から、市民事業専門委員会にて5つの投票候補を選考し、交流会当日、参加者の皆様に投票いただきました。

その結果選ばれたのは・・・

もり・みず 市民事業支援補助金 です！

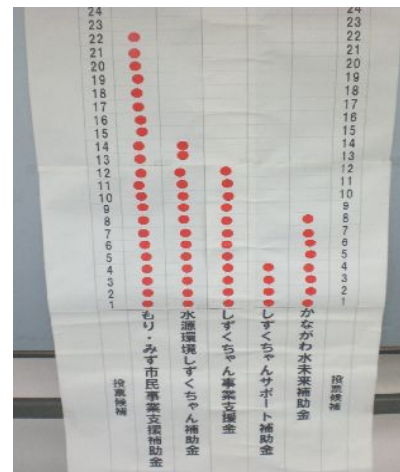
とても親しみやすくなったのではないのでしょうか。

皆様の市民活動の拡充に、この「もり・みず市民事業支援補助金」をぜひご活用ください。

募集スケジュール等は、「しずくちゃん便り14号」をご覧ください。



水源環境保全再生
イメージキャラクター
しずくちゃん



投票結果

参加団体メッセージ

特定非営利活動法人四十八瀬川自然村 氏田 章治 さん

今回、「水質調査の手法について」をテーマとしたグループワークに参加し、各団体が①必要な知識・機器・財源、②実績の発信方法についての相談窓口の必要性、そして特に③より活発に活動するための若い構成員の確保、を共通した悩みとして抱えていることがわかりました。今回の交流により、「次世代へより良い自然環境を」の共通した目的に向い、さらに活動を活発化させる気持ちを新たにしました。

特定非営利活動法人ふれあいの郷 松田 宣 さん

NPOを設立して2年目になりますが、この度初めて市民事業交流会グループワークに参加させていただきました。「会員・イベント参加者の確保」をテーマに、参加団体の方々と普段はなかなか出来ない意見交換もでき、有意義な時間となりました。今回のような交流会での意見、提案は私どものこれからの活動の参考にさせていただき、ぜひ今後も多くの方々に参加していただいで共に勉強できればと考えています。

主催者(市民事業専門委員会委員)メッセージ

林 義亮 さん(神奈川新聞社論説副主幹)

交流会に参加し、日ごろ何げなく利用している「水」を守るために、多くの方が活動されていることをあらためて教えられ、力強く感じました。皆さんの話をうかがって、とりわけ印象深かったのは、「継続」…活動を広げ、次世代に引き継いでいくことの大切さと難しさです。

こうした会合で、思いや悩みを同じにする仲間と語り合う時間の貴重さを実感しました。

増田 清美 さん(県政モニター08会幹事)

活動報告では、団体から「張り切りすぎてすでに当初予定事業をこなしてしまった」との頼もしい報告もあり、各団体が着実に事業を行っている状況がわかりました。

グループワークにおいて出された「長期に取り組める支援をして欲しい」という意見は、今後の課題と言えるでしょう。

また、顔を合わせての話し合いは共通認識も生まれ、繋がりも深くなり、交流会としての成果が見られました。